

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0190400671		
法人名	医療法人 北武会		
事業所名	グループホーム ほくとⅡ		
所在地	札幌市手稲区手稲本町3条4丁目2番5号		
自己評価作成日	令和2年9月18日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyvoCd=0190400671-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年はコロナ禍で外出する機会が少なく施設内の生活が中心となっている。ご自分が出来ることを見つけ出し、少しでも続けて行けるような環境を作るようにしている。又、個人の趣味を持っている方については、いつでも出来るように材料を準備している。行事等についてもお1人おひとりが関わられるように職員が支援している。身体が動く方については、日常生活に於いても掃除や配膳、食後のおかたづけ等一員として職員と共にやっている。今まで経験してきたことが継続して出来ることに満足感をもって過ごして頂けるよう関わっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市手稲区の市街地に位置し、JR手稲駅南口から徒歩圏内で、3階建ての1階と2階にある3ユニットのグループホームである。国道5号線沿いで、近隣にコンビニや飲食店があり利便性のよい地区である。建物内は、病院転用型で3階にも同法人の2ユニットのグループホームがあり、2階には渡り廊下で特別養護老人ホームが併設している。1階には多目的スペースがあり、介護予防センターなど地域の活動に開放している。ホーム内は、リビングや食堂、廊下、居室、職員休憩室など全て広くゆったりしている。法人は、医療法人だが社会福祉法人などを含めて幅広い業容展開をしている法人グループで、病院や老健施設、特養老人ホームも5ヵ所運営しており、地域への貢献度が高い。利用者は、広いリビングの大きな窓から手稲の街並みを一望しながら、ゆったりと寛いで毎日を過ごしている。認知症高齢者の複合的な支援施設として、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・定期的に理念を確認しあい、ケアに繋げて行けるよう話し合うようにしている。 ・職員がいつでも見ることが出来るよう掲示し、会議には読みあわせしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・通常であれば、1年間通して地域との活動は大人から子供まで交流していた。 新型コロナウイルスの影響により現在は休止状態となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・施設の中の福祉避難スペースを地域の高齢者の行事や他事業所の行事に開放している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・今年はコロナ禍で書面会議にての会議を実施している。施設内で会議を行い、議事録を町内会、家族、包括に送りご意見やご指導を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・入居状況報告を毎月送っている。 ・コロナ禍で必要な物品が不足しないように情報を見逃さず対応している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・定期的に身体拘束委員会の開催と勉強会を実施している。又、ユニット単位でどのような行為が身体拘束にあたるか具体的に話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ユニット会議でどのような行為が虐待に当たるか話し合うようにしている。又、申し送りなどでは管理者は助言をすることがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ成年後見に制度を必要としている方はいらっしゃいませんが、今後必要になって来た時に、すぐに支援できる体制を整えておく必要性があると思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には十分な説明の時間をお願いしている。質問事項に関しては適宜対応できている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情箱の設置と共に、ご家族様が見えた時に質問にお答えできるようにしている。苦情に関しては速やかに会議を開催し原因の究明と今後の対応について話し合い、結果を掲示するようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日常的な仕事の中ではとても詳細に意見が出てきます。施設として出来る事、緊急性のある事を優先的に管理者は動いています。現場職員の仕事に支障が出ないように出来る限り対応しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリア段階制度を設けており、定期的に職員との面談を実施している。介護の仕事をどう捉えているか、今後の自分の目標などを聞き取っている。目標に向けて必要なことは出来るだけ対応するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・経験の少ない職員には積極的に研修の参加を促し、機会をあてている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	・コロナ禍で各々の取り組みをどのようにしているか等、文書や電話での交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・孤立しないようにコミュニケーションを多く取るようにしている。 ・家族との関りを継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族がどのような生活を望んでいるかの確認を必ず行っている。 ・入居されて間もない時にはどのように過ごしているかをお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・施設として、出来るサービスとご家族にお願いしなければならないところを明確に説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・環境が変わりご本人の出来るところ、できないところを見極めるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・コロナ禍の中で電話で交流が出来る方についてはご家族と交流が出来る。交流が出来ない方は月に1回はお便りにて生活状況をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご本人が行きたいところやしたいと思っていることをご家族様にお伝えするようにしています。又、ご自分で連絡が出来る方は自由にして頂いております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う人たちがグループになり他者を攻撃することがあるので気を付けている。必要時は職員が介入し、固まらないように座る位置などを工夫し交流できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・事業者間との交流を通じながら、移られた方の現在の状況などの情報を確認しあう事を折に触れ行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご自分のしたいこと等、ご自分から言ってくる人は家族との話し合いで行えるよう配慮している。出来ない人については、職員が個別に対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・在宅でどのように過ごされていたかの情報は職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・1日の生活スタイルや、出来る事出来ないことを把握している。 心身状態で変化が生じた場合などチームで統一した介護が出来るよう話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・状態の変化があった時は、家族や医療との連携を取るようになっている。 現状で出来ることから開始している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の変化を記録し職員間で共有している。 出来ることを優先し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・緊急性がある場合は家族様と相談しながら行うことが多い。必要であってもご家族様が動けない時は施設で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・今年は新型コロナの影響で活動の場が少ないが、昨年までは地域スペースを活動の場として楽しんで頂いていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的な往診にて、変化があれば医療と相談しながら対応している。 かかりつけ以外の診療については、医師からの紹介状で受診することが多い。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・変化があれば早めに主治医へ連絡し指示を仰いでいる。指示に従い必要に応じて受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・予定入院日数が決められていても、状態に応じて帰設できる状態であれば受け入れている。出来るだけ入院日数が長くないよう相談しながら助教の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合の対応については、入居時にご家族様に説明を行っている。医療との連携はきちんとできているの速やかに対応することが出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・すべての職員ではないが、初期対応についてはどのように行動するかは把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・運営推進委員会に於いて、地域の方と情報交換を行い、災害における対策などを話し合っている。又、地域の方職員で定期的には火災における避難訓練を行っている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりが違う人格をもっており、理解するよう努めていると思う。その人が傷つかいような言葉かけをするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご本人のしたいこと等の思いを聞いたときは、出来ることは早く対応することになっている。又会話の中で思いを聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	・お声掛けした時にご本人の希望通りに対応することになっているが、様子を見ながら必要に応じて誘導する事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節に応じた洋服や、ご自分の好む髪型は都度確認しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食べたいものをお聞きして、月に3回くらいはメニュー以外の食事を食べて頂いている。 ・お声掛けして、食後の食器洗い等を職員と共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日のカロリー計算されている。 ・どのくらいの水分摂取が出来ているか水分量を計測している。一律ではなく、入居者様の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、歯磨きうがいを実施。 ・出来る人へのお声掛けと出来ない人への介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・体調により異なるが、立位が出来る状態の時はトイレでの排泄を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・医師と相談しご本人に合わせた排便コントロールをしている。・水分量の確認をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	・拒否や体調による場合は、個々の入居者様の状況に応じて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入居前の生活パターンを維持できるように、自由に過ごして頂いている。 ・日中の眠る時間が長いようであればお声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬が変更になった時等、経過観察結果を主治医にお伝えしている。 ・日常に於いても体調に変化があれば医療との連携は出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ご自分が楽しめる事は自由に行っている。 ・レクや行事、誕生会等皆で楽しめるよう計画し実行している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・毎年、気候に応じた外出を計画し実行している。 ・ご家族様と共に温泉やコンサート等の外出をされ楽しまれている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・欲しい物があれば言って頂き、ご家族様と相談の上購入することが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話をもっている方は自由にご家族様との交流を楽しんでいる。 ・近隣の小学生と年賀状の交換を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用スペースには皆で作った作品や毎月のカレンダー等を作り、展示し楽しまれている。皆様、お部屋にいる時間が少なくリビングで過ごされている時間が多い。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・同じ空間の中でも、一人でパズルをされたり、新聞を読まれたり共通のドラマを見たりと各々自由に過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居される時には、ご本人が落ち着ける環境で過ごして頂けるようご自分の愛用されている物や、長年使いなれたものを持参して頂くようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全に過ごすことが出来るように、動線の安全性を確認している。ご本人にとっての不便なところや危険と思われるところは工夫して対応している。		